

< 歯科的な問題・歯科医師 >

- ・義歯が合わない、唾液・舌苔の量、食物の溜め込み、舌の動きが悪い、自律神経障害、歯科の通院が難しい
- ・パーキンソン病の症状が進行していなくても付随運動などの影響で口腔管理が不十分な方が多い
- ・歯が抜けると、口腔内の傷や感染につながる
- ・認知度の低下や会話のキャッチボールができない方などでは、義歯の紛失に注意する
- ・部分義歯は、飲み込んだり紛失することが多いため、大きめに作る
- ・就寝時、誤嚥の可能性があるため、義歯を外して横になる
- ・歯科衛生士が常駐している施設は、肺炎が少ない
- ・下手な口腔ケアが肺炎を誘発することもある
- ・スポンジブラシより、歯ブラシの方が良い
- ・口腔機能低下症に対し、食事、栄養指導するようになってきている
- ・虫歯チェックはもちろん、S T連携が増えてきている
- ・食べるのに義歯があれば安心という考えがあるが、一番大事なのは食思

< 医師 >

- ・パーキンソン病の方の肺炎を防ぐことが重要
 - 嚥める、栄養を取る、家族の負担を減らし、命を守る
 - 情報の共有としてのツールの活用 MCS など有効

< 薬剤師 >

- ・薬を飲むとき、適正な水分量であるか → コップ半分～1杯
- ・口に含む時間は6秒以内がいいといわれている
 - 負担な時は変更を検討し、まずは薬剤師に相談する

< ケアマネジャー >

- ・食形態の調整や義歯の使用について、夫がどこまで対応できるか、負担が大きいのでは？
 - 訪問歯科が必要か、回数など検討
 - 経済的困窮されている方に訪問歯科を勧められない
- ・義歯が合わないことがあって、訪問診療に相談したが動きが遅い
 - 歯科医師会、ケアマネジャーへ相談し、かかりつけ医とつながりやすい歯科を紹介される
- ・受診できないときは訪問歯科をすすめるが、家に入れたくない方もいる
 - 送迎がある歯科もあるので紹介する
- ・特定医療証の申請がない人もいる → 医師に確認し、相談員にも伝えている
- ・情報はCMに集まるのか？医療で行くことが多いので、とばされることがある
 - 緊急時の情報の共有は、サービス事業者間でおこなうことも必要
- ・生活様式を変えるタイミングは、入院のことが多い

< リハビリ専門職 >

- ・良好な嚥下のためには、姿勢が大事 → 少しテーブルを下げてもらう
- ・食後に口の中を夫に診てもらおうとあるが、見るポイントが分かっているのか心配
- ・歯磨きに時間がかかる、椅子に座ったら5分後に見に行っても動いていないこともある

→ 自宅の場合、家族が対応できるのか心配

- ・義歯の紛失を防ぐため、食事に関係なく時間を決めて確認する（口腔内、居室など）
- ・マスクをしてよく見えていないこともあったが、義歯がきちんと装着できているのか、本人や家族に聞くだけではなくて、目視で確認することが必要だった
- ・栄養と口腔の加算をもらっている人は、栄養士、歯科衛生士に入ってもらっている
 - 加算のあるデイサービスを利用していただいてもいいと思う
- ・進行性の疾患で、1度整えたら終わりじゃないので、情報がケアマネジャーからもらいたい

<看護師>

- ・高齢者の口腔内の観察は行っている → 必要時はケアしている
- ・口腔内の観察やケアを誰が、どのタイミングで行うのかを検討する
 - 夫の負担の軽減、観察やケアのポイントを伝えて、実施できるといい
- ・食後のうがい、口腔ケアなどできるところは自分で行ってもらう
 - 薬の影響も踏まえて、口腔ケアはできるだけ寝る前にしてもらいたい

<ホームヘルパー>

- ・本人に合った食事の提供（特別食）
- ・義歯を外すときにコツが必要、特に舌で押し出すことが困難な方には介助する
- ・口腔ケアは後回しになる
 - スポンジブラシやうがい、洗面所への誘導だけでも行えると、スッキリし、介護予防にもなる
- ・義歯をティッシュに包むことがよくある
 - 本人も、職員もごみと間違えて捨ててしまうことがある

<デイサービス>

- ・食事前に口の体操があり、食後の口腔ケアの介助可能
- ・通所中の内服が可能か観察し、難しいときの対応が必要になる
- ・一日型では、歯ブラシを持参し歯磨きをされる方が50%いる → 意識が高い
- ・うがいができないのは、症状的に課題が多く出るサイン
- ・栄養面に関して管理栄養士の依頼をする
 - 北九州市栄養士会に病院から依頼し、訪問につなげたことがある

<在宅>

- ・施設では食事介助をするので気付けるが、在宅では問題に気付くのが遅い
- ・お口のことで気になることはないですか？と聞くだけでなく観察する
 - 傷・潰瘍、義歯の装着・汚れ、食物残渣など
 - 早めに対処できるように、訪問歯科を依頼する
- ・食事時間の検討
 - 20～30分で摂取できるように食形態を考える
 - 姿勢を保持するために、家の物で何を使って対応するか
- ・食事時、義歯はできるだけ装着して寝るときは外す
- ・コミュニケーションが大事
 - 情報が集まると早い気づきになる
 - 人に口を見せるのは恥ずかしいもの、関係性を作って見せてもらう
- ・食事面、口腔ケア → ヘルパー、デイ職員、家族を含め行う
- ・口腔ケアの意識が低い 連携が不十分で確立していない

<その他>

- ・MC Sの活用
 - 訪問歯科とつながる
 - 医師からの情報提供を確認する
- ・予防歯科の大切さが伝わるという